

第六回 異と和～違いが調和を紡ぐ時代へ～



令和 7 年 6 月 1 日

仙台奥羽ロータリークラブ 6 月臨時例会

MR オープンカフェ第一部

日本の学校教育に関する考察

発表者とテーマ選定の背景

- ファシリテーター: 第一三共株式会社 成田憲哉氏
- テーマ選定理由:
 - 自身の子供の成長（高校生、小学校高学年）に伴い、授業内容の変化等について話す機会が増えたため
 - 当初は世界的な教育問題（貧困など）を考えたが、テーマが壮大すぎるため、親世代としてできることを考え「日本の学校教育」に焦点を当てた

日本の教育の歴史

- 古代～中世:
 - 飛鳥時代: 聖徳太子が日本で最も早く教育に関心を示し、万民平等の教育思想を持つ
 - 大宝元年 (701 年): 大宝律令により、式部省の中に大学寮が設置され、学校のスタートとなる
 - 律令：律（法律）と令（政治）
 - 1177 年: 大家により大学寮が焼失し、公的教育機関としての大学は消滅
 - 鎌倉時代: 北条氏が金沢文庫（神奈川県）を設置し、文書を収集
 - 室町時代: 上杉憲実が足利学校（栃木県）を再興し、当時の日本の中心的学校となる
 - 江戸時代:
 - 武士階級：藩校で儒学、武士の心得、武術を教育。例：会津藩の日新館
 - 一般庶民：寺子屋で読み書き算盤を学び、識字率向上に貢献
- 近代教育の大きな変化:
 - 明治維新时期:
 - 1872 年: 「学制」公布。大学、中学、小学校の三段階の学校制度を定める
 - 全国に小学校を設置し、国民の識字率向上と近代国家に必要な人材育成のため小学校教育を重視
 - 義務教育が課せられる

- 明治末期（1912 年頃）には、男女児童の約 80%以上が小学校に通学
- **教育勅語（1890 年）**: 明治天皇が国民教育の基本目標を示したもの。本田長植が作成。天皇中心、親孝行、家族制度など日本人のあるべき姿を提示。儀式のたびに校長が読み聞かせ、忠君愛国の考えを浸透させたが、第二次大戦後に廃止
- **戦後改革期**:
 - **1945 年 8 月 15 日**: 終戦。9 月 2-3 日に降伏文書調印
 - **GHQ による五大改革指令**:
 1. 圧政の撤廃（治安維持法廃止、特高廃止など）
 2. 婦人解放（婦人参政権承認）
 3. 労働組合の育成（労働組合法制定）
 4. 経済の民主化（財閥解体、農地改革）
 5. 教育の自由化
 - 2. **GHQ の四大教育指令**:
 1. 軍国主義の廃止（国家主義的思想教育、軍事教育の禁止）
 2. 軍国主義者・国家主義者の教職員追放
 3. 神道（国家神道）の国家からの分離、学校での神道教育排除
 4. 修身、日本歴史、地理の授業停止（教科書の墨塗りはこの影響）
 - 修身（道徳に類似）、日本の成り立ち、地政学的な内容を含む実践的授業が減少
 - **教育基本法制定**: 現在の 6-3-3-4 制が定められる

日本の教育の現状と課題

- **学習指導要領の変遷**:
 - 戦後、約 10 年単位で改定
 - 発表者（1980 年生まれ）は「ミニマムライフ」の時期
 - 「ゆとり世代」（1990 年代生まれ頃）は授業時間が短縮されたが、現在は授業時間が増加傾向（小学校 5785 時間、中学校 3045 時間）
- **学力水準と国際比較 (PISA 調査)**:
 - PISA（OECD 生徒の学習到達度調査）では、日本の生徒の学力は継続して高い
 - 2022 年調査結果：科学的リテラシー 2 位、読解力 3 位、数学的リテラシー 5 位
- **教育格差**:
 - 生徒の社会階層と高校ランクに関連性があり、家庭の経済レベルが高い生徒は私立高校に進学し、学力も高い傾向（中 3 データ）
 - コロナ禍や物価高で家計が厳しくなる中、教育格差が拡大。年収が多い世帯ほど塾などの補習教育費をかけている
 - 所得による教育格差が極めて大きい
- **学力と経済・社会との関連**:

- PIAAC（国際成人力調査）：日本の成人の読解力は高いが、一人当たり GDP は中間レベルであり、学力が経済活力に十分に繋がっていない可能性
- 企業調査では、仕事に必要なスキルを持つ人材を採用できないと回答した企業の比率が日本は非常に高い。学校教育と仕事のスキルが結びついていない印象
- 学習意欲と精神的課題：
 - 社会への意識の低さ（六カ国調査）：
 - 「自分は大人だと思う」「自分は責任がある社会の一員だと思う」「自分の行動で国や社会を変えられると思う」「国や社会に役立つことをしたいと思う」「慈善活動のために寄付したい」「ボランティア活動に参加したい」といった項目全てで最下位
 - 強い試験不安と学習への弱い動機づけ：日本は学習意欲が低く、試験に対する不安が強い国に位置づけられる
 - 科学への関心の低さ：
 - 科学の楽しさ指標、科学に関連する活動指標、理科学習者としての自己効力感指標がいずれも低い
 - 見つからない生きる意味：「生きる意味」の指標で日本はほぼ最下位。学習が自己肯定感の向上や幸福度に繋がっていない
- 幸福度の現状（世界幸福度調査－国連）：
 - 日本は 2023 年 47 位、2024 年 51 位、2025 年予測 55 位と横ばい
 - 評価項目：一人当たり GDP、社会的支援、健康寿命、人生の選択の自由、他者への寛容さ、腐敗の認識など
 - 日本は GDP は悪くないが、社会的支援、人生の選択の自由、他者への寛容さが低い。これらの項目は学校や企業の取り組みで育むことが可能と指摘

世界の教育事情

- フィンランド（世界幸福度ランキング 7-8 年連続 1 位）：
 - 特徴：透明性の高い政治、充実した社会保障制度、質の高い教育、子育て支援
 - 教育の質：学力を競うのではなく「自分のために勉強する」価値観
 - 教育内容：
 - 現象ベース学習：文化、歴史など土地固有の問題や自治問題を授業に取り入れる
 - 自主学習：授業の約 30%が自由時間。好きなテーマを調査しレポート作成
 - プロジェクトベース学習：実際の問題解決プロジェクトを課題とする。調査、討論、プレゼンテーションを通じて学びを深める
 - 読書重視：授業中に読書時間を確保。読書感想の共有で他者視点の理解、論理的表現力を養成。クリエイティブライティングの課題も
 - グループワーク：協力して問題を解決する活動が多い。数学もグループで解く
 - 反省的实践：フィードバックと自己反省で次回の学習に活かす
 - 子育て環境：16 時頃までに仕事を終える文化があり、家族と過ごす時間が長い

- 課題:
 - PISA の成績が近年低下傾向
 - 教育の平等性低下（社会経済的格差の出現）
 - デジタル化の影響（過度なデジタル依存による学習低下の懸念）
 - 教師の負担増（個別指導、少人数制による多忙化）
- オランダ:
 - 公園が多く、宿題が少ない。外遊びをする子供の幸福度が高い
 - 15 歳でも友達を作りやすいと回答する子が多い
 - ワークライフバランスがトップクラスで、保護者との時間を確保しやすい
 - いじめなどがあっても相談できる人がそばにいる環境
- 教育改革の視点:
 - 北欧の個性重視学習が逆に格差拡大を招いている可能性
 - 日本の詰め込み型教育は安定した学力維持に貢献している側面もある
 - 急激な教育改革はリスクがあり、小さな改善の積み重ねが重要との論説

グループディスカッション

- ディスカッションテーマ:
 1. 日本型教育のメリット・デメリット
 2. 親世代として子供たちとどう向き合っていくべきか
- 2. 会場前側グループの意見:
 - メリット: 詰め込み型教育による基礎学力向上は国力の基礎として十分
 - デメリット: 座学が多く応用力や学んだ知識の活かし方が不明確。試験に追われる勉強が多く自由な学習ができていない
 - 親として: 子供とのコミュニケーションを密にし、好きなことを見つけて支援。親の思想を押し付けず、偏差値だけでなく学校の教育方針も見て学校選びをする
- 会場後側グループの意見:
 - メリット: 一定レベルの学力水準の高さ、義務教育のレベルの高さは評価すべき
 - デメリット: 応用力が少ない、暗記教育がメイン、実社会と学習内容がリンクしていない。詰め込み型カリキュラムで教員も多忙
 - 課題: 幸福度や生きる意味の低さ。協調性重視で出る杭が打たれる風潮
 - 親として: 子供がやりたいことを自由に選択できる環境を提供することで幸福度向上に繋がる
- ウェブグループの意見（発表者まとめ）:
 - 日本型教育は正解を言わなければならない空気がある
 - 選挙に関する教育が不足している（ゆとり世代に限らず）
 - 家庭でのディスカッション環境が重要
 - 不登校の子供が増える中、本人の意見を引き出すことに焦点を当てる必要性
 - 国の誇りを持つような教育（昔の修身や神道教育のようなもの）も、戦争は否定しつつも、もっとあっても良いのでは

総括と提言

- 発表者によるまとめ (Chat GPT 活用含む):
 - 日本型教育のメリット: 基礎学力が高く、国力向上に貢献。義務教育のレベルが高い
 - 日本型教育のデメリット: 詰め込み教育、競争によるストレス、応用力不足 (暗記がメイン)
 - 今後の提案 (Chat GPT より): アクティブラーニング導入、多様性重視、メンタルヘルス教育
 - 今後の提案 (参加者意見より): コミュニケーションをとり、子供の好きなことを支援できる環境づくり